

の学生さんたちに報告していただきたいと思います。  
上島 少年文学会は、〇三（平15）年に早稲田文芸会とい



（上島邦彦さん）

う名前に改称されました。児童文学をもっぱらとするサークルではなく、小説・マンガ・ゲームといった、広い意味での記号表現一般を取り扱っています。僕自身の入会の動機は、高校二年の時に綿矢りさ



（上野知明さん）

の『インストール』を読んでも衝撃を受けたことです。これは文学をやるしかないと思います、文芸会に入りました。



（齋藤 甫さん）

上野 僕は高校を卒業してから、演技の道を目指していた時期もあったのですが、子どもころから本が好きで、やっぱり文学の勉強しようとして大学へ入ったわけです。文芸会に入会した時には、前身の

少年文学会のことにはまったく知りませんでした。  
齋藤 自分は文芸会ではなく、児童文学研究会の方に所属しています。児童文学研究会は、本日いらしている川北亮



（佐藤千晴さん）

司さんが創設されたサークルです。現在、文芸・評論・絵本・少年詩・読み聞かせの各パートにわかれて活動しています。早稲田祭では、パートごとの冊子の出展や、読み聞かせ活動の発表などを行います。また、文芸会さんもやっているのですが、文学フリマという同人誌のイベントへの参加もしています。

佐藤 私は、児童文学研究会の読み聞かせパートのチーフをしています。読み聞かせパートは、毎週土曜日に、この近くの鶴巻図書館で活動しています。とにかく児童文学に関わりたくて、児童文学研究会に入りました。小学校六年ぐらいの時に、あさのあつこさんの『バッテリー』を読んだから、児童文学から抜け出せなくなった感じです。作品を書きたくて入ったわけではないので、他の人とはちょっと違うかもしれません。

### ■それぞれの時代状況

司会 ありがとうございます。では、時代をさかのぼりまして、神宮さんから順に、入会当時の様子などをお聞かせください。

神宮 私は、四九（昭24）年に童話会に入会しました。大